

MSZ-006 'ZETA GUNDAM'

A.E.U.G. ATTACK USE PROTOTYPE VARIABLE FORM MOBILE SUIT

© 創通エージェンシー・サンライズ



HG

保存版

■ 1/144 MSZ-006「ゼータガンダム」HG

1/144 Scale Model Kit, MOBILE-SUIT MSZ-006 "ZETA GUNDAM" HG.
Mechanic Design by Kunio Ohkawara. Package Illustration by Yuji Kaida.
Explanation Note : Illustration by Hajime Katoki, Script by Masahiko Asano.
Kit Rebuild Report by Kugū Mahito

**BAN
DAI**

BANDAI 1990 MADE IN JAPAN



▲グリプス戦争の終局、メール・シュトローム作戦によりコロニー・レーザー砲を占拠したエウーゴは、同胞を死守すべくティターンズとアクシズのMS群に対して総力戦を繰り広げた。写し

真は、同砲台周辺でMSZ-006とPMX-003「ジ・オ」が交戦に突入した所である。エウーゴの奮戦によりコロニー・レーザー砲は兎事ティターンズ艦隊を射抜き、戦争は遂に終結を見た。

「このMSが、MS第3世代への夜明けとなってくれる筈だ。」

(MSZ-006パンフレット〜アナハイム・エレクトロニクス社長コウエル・J・ガバナンのコメントより抜粋)

U.C.0085年、MS開発はひとつの大きな転期を迎える事となった。アナハイム・エレクトロニクスという巨大複合産業の参入が、良くも悪くも常にこの後のMS開発に大きく関与していくのである。それは一年戦争終了後低調になった経済を再度活性化させる事となり、MS開発技術は飛躍的に拡大し、遂には「第3世代MS」と呼ばれるTMS(可変モビルスーツ)誕生を促す事に繋がっていった。

■アナハイム&エウーゴのMS開発

アナハイム・エレクトロニクスは主に宇宙開発に対してさかんに投資を行なって来た企業で、一年戦争当時のジオン公国でさえ接収を控えた程であった。

一年戦争終結後、元ジオン公国のZE-

ONIO社を吸収・合併し、急速にMS開発技術が進歩、あっという間にMS最大手のメーカーとなっている。

このアナハイム社に対して、同じ連邦内のティターンズ(地球連邦軍治安部隊)勢力との軍事対決に備えるエウーゴ(反地球連邦弾圧組織)は、U.C.0085年に新型量産MSと同時に超高性能MS開発を依頼した。アナハイム社はU.C.0084年に、アクシズよりガンダリウム合金の組成や生産加工についての技術導入を企てる事に成功しており、これらの技術によりMSの装甲はもとより特にムーバブルフレームとジェネレーター²の進歩に大きな影響を与えていた。

ガンダリウムAを使用したアナハイム

ノエウーゴ初のMSは、RMS-099「リック・ディアス」であった。第2世代MSとしての要素を完全に備えた傑作機であり、アナハイム社内では「Aガンダム」とも呼ばれた。

これに引き続きアナハイム/エウーゴでは第3世代MSの検討が行なわれ、「PROJECT-Z」のコード名で計画がスタートした。第3世代MSとは、第2世代MSで導入されたムーバブルフレーム・システムのフレキシビリティをさらに前進させた、TMSの事を指す。リック・ディアスの次に設計されたMSN-00100「百式」は、当初可変ムーバブルフレームを使った初のTMS「δガンダム」として予定されていたが、変形にトラブルが多

く、変形機構が省略されエウーゴ初のガンダム・タイプMSとなった。この頃からアナハイム/エウーゴのガンダム・タイプMSには、ギリシア文字1字を冠したコード名が付けられ、高級高性能なガンダム・タイプのTMSが次々と考案されていた。

■「PROJECT-Z」達成への要因

アナハイム/エウーゴのPROJECT-Zにとって、決定的な飛躍を遂げるファクターとなったのは、U.C.0087年3月のティターンズ・ガンダム奪取であろう。ティターンズ・ガンダムこと、RX-178「ガンダムMk.II」試作機3機全てを奪取する事に成功したエウーゴは、その内1機を月面グラナダ・シティのアナハイム

ANAHEIM ELECTRONICS'

SINCE UNIVERSAL CENTURY 0087, A.E.U.G.'S TRANSFORMABLE MOBILE SUIT "VMSAWrs"

ウェイブライダー・モードのフライングアーマーの設計には、シャッロー陸下戦時にガンダムMK II が使用したフライングアーマーのデータがフィードバックされている。又、ウェイブシューターのウイングバインダーの設計は、カラバの再設計量産機であるZ PLUS にフィードバックされるなど、PROJECT-Zは開発MSの実戦データにより成長を続けた。

PROJECT "Z"

MSZ-006 "Z-GUNDAM"

MOBILE SUIT mode

Anti Mobile suit Close Combat Form

社MS工場へ持ち込んだ。"ガンダム"の名を冠してはいたものの、ガンダムMK II は当時としては特に目新しい特性を持たない極めてオーソドックスな、第2世代MSのはしりとも言えるMSであった。その事実にはエウゴ主脳陣を落胆させたが、柔軟な発想を持っていたのは逆にアナハイム社のプロジェクト・チーム技術陣であった。

アナハイム社プロジェクト・チームの

ガンダムMK II への着目点は、それまでの同社MSよりも基本設計が優秀なムーバブルフレームにあった。アナハイム社製MSは、ZEONIC社の流れから関節のフィールドモーター駆動に開発の余地をまだまだ残していた。一年戦争当時からジオン公国に先がけて、フィールドモーター駆動を採用し続けて来た連邦の最新MSの、その完成の域に達した堅実なシステムは、アナハイム社技術陣にとっては充分研究の対象となった。そのフィー

ルドモーター能力を最大限に引き出す事を可能としたムーバブルフレームの設計は、アナハイム/エウゴが目指すPROJECT-Zのガンダム・タイプTMSの条件に、見事一致していたのである。

このムーバブルフレームの設計思想を得た事により、アナハイム社第4のガンダム・タイプMS、コード名"Z"ことMSZ-006"Z-GUNDAM"の設計が急ピッチ

で進められた。

■第3世代MS、"Z-GUNDAM"誕生

TMSのメリットは多数存在するが、Z-GUNDAMに求められたのはMS単体での航続距離問題が主であった。この為、Z-GUNDAMはウェイブライダー・モードと呼ばれる巡航形態への可変能力が組み入れられた。又、同時にこの形態を利用したのノン・オプションでのMS単体による大気圏再突入をもが計画された。逆V字型の正面形とクサビ型の平面型を持つ

WAVE SHOOTER mode

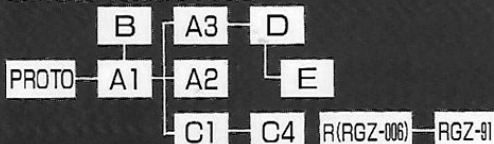
Space Cruising And Air Combat Form

AROUND THE "PROJECT Z"

▶ジャブロー降下戦で果たせなかった夢、ノン・オプションのMS単体での大気圏再突入を、遂に実戦で敢行するウェーブライダー。作戦遂行上母艦への帰還が不可能となってしまったMSN-00100「百式」が、ウェーブライダーに対しアプローチをかけている。2機は無事再突入を果たしている。

▼006系ファミリーの開発系統樹である。プロトタイプにスタートし、カラバが再設計したZ plus A1型、練習機B型、ハイ・メガガン試作A2型、飛行性能向上試作A3型、同完成機D型、大気圏内/外仕様再設計機C1型、同フライングアーマー装着C4型、早期警戒指揮機E型、BWS試作R型、そしてリ・ガズィまでが、同系列ファミリー機として進化・発展していった。

MSZ-006開発系統図(→横軸は時間の流れ)



MSZ-006 FAMILY'S HEAD UNIT VARIATION



▲プロトタイプ機からリ・ガズィに至るまで、いわゆる「Z系」と称される独特のフェイス・パターンは継承され続けている。Z plusではバルカンの装弾数向上が計られたが、逆にリ・ガズィはプロトタイプ以下の装弾数であ

る。▶Zガンダムの変形途中のショット。ムーバブルフレームを十二分に利用した豪快な可変機構である。大気圏内でのMS→WRへの変型は、母艦からの滑空時以外は基本的には不可能であったが、それでも充分驚異であった。

つ飛行体であるこの形態は、超音速飛行で発生する衝撃波(ショック・ウェーブ)を機体下面に集中させ、それに波乗りする様なスタイルで飛行する。WRというネーミングも、ここから来ている。その後もノン・オプションで単体大気圏再突入が唯一可能なシリーズ機として、重宝されていく事になる。

MS形態時背中のムーバブルフレームにマウントされるフライングアーマーは、状況に応じての交換も考慮された設計となっており、ウイングバインダー式のV G翼(可変後退翼)タイプの物も同時設計されている。再突入能力は持たないものの、大気圏内低空での飛行性や離着陸距離、航続距離を向上させる他、宇宙空間ではMS形態時にAMBACシステムとして活用出来た。同ウイングバインダー装着時のWR形態は、運用区別上ウェーブシューターとも呼ばれる事があった。

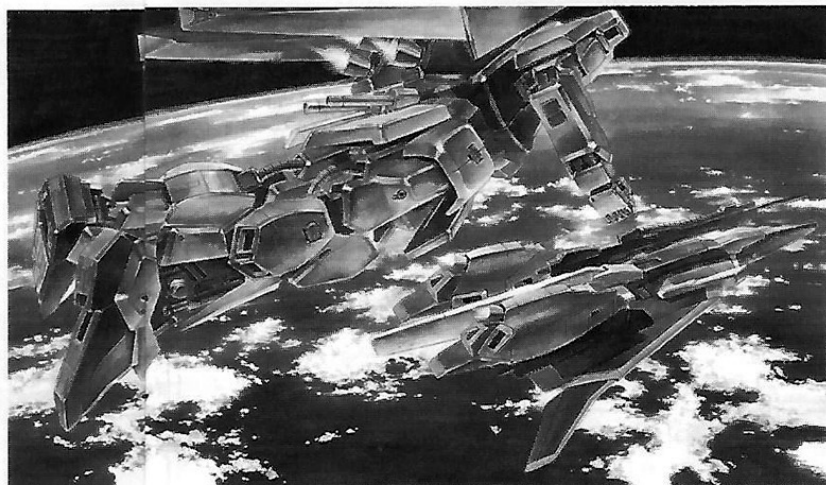
この複雑な可変機構は、MSの上半身

にジェネレーターを組み込む事が不可能であり、腹部内部は空洞となっている。その為、ジェネレーターは両腿に各1機ずつ搭載しており、信頼性の向上に加えて主スラスターを熱核ジェット・ロケットとする事が出来たなど、全てがプラスの方向性で固まった。

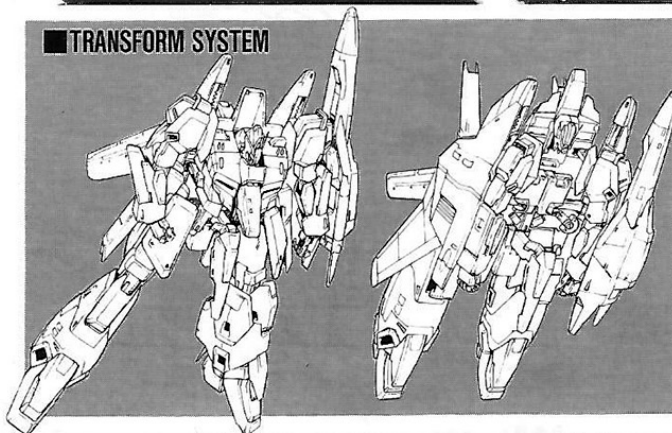
この可変機構の他は、第2世代MSで完成されていた各種オプション対応能力をそっくりそのまま持ち込んだ機体であり、アナハイム/エウゴ系MSのオプションは大抵携行する事が出来た。

■進化・発展する006系ファミリー
優れた運動性、高い機動力を見せたZガンダムだったが、その複雑さ故の超高額化、整備性の低さから、エウゴは量産に踏み切れないでいた。

しかし、WRモードの有効性に気付いたエウゴの地上軍とも言えるカラバが、大気圏内専用機として量産に踏み切った。カラバも決して財政的なゆとりがあった



TRANSFORM SYSTEM



訳では無いが、この機体の潜在能力に期待を懸け採用を決定したのである。この賭けは吉と出て、カラバは予想以上の大戦果から組織としての影響力も拡大する事が出来た。その量産型機「Z plus」はそのめざましい活躍からエウゴに注目され、大気圏内外機として再設計され正式採用に至っている。その後、数々のバリエーション開発と共に多大なテストを繰り返し、高額化を抑えたBWS(バック・ウェポン・システム)方式のZ plus R型まで進化を遂げた。同BWSシステムは後のU.C.0091年にRGZ-91「リ・ガズィ」として完成の域に達している。

この様に、Zガンダム・シリーズはTMSとしては最も完成された機体として数年に渡り研究・開発が繰り返された。アナハイム社プロジェクト・チームによるこのヒット作は、この後誕生する全てのTMSに、大きな影響を与えていったのである。

■ガンダム世界用語の基礎知識

- ※1……耐熱性、耐酸性、堀性、硬度に優れるチタン系超合金。しかし、チタン自体の分離、加工の難しさ、高価なシールドを使用している為の高コストが問題である。
- ※2……第2世代MSから導入された、MS構造そのものを一変させた新概念。「人間」の動きをトランス出力する程のフレキシビリティを持つ内骨格システムで、故障発生率の低い堅牢で信頼性の高い完成されたシステムとして、以後のMSに継々と導入された。
- ※3……一年戦争当時、ジオン公国軍のMSは各関節駆動に流体内部パルス・システムを採用していたが、連邦軍はフィールドモーターと呼ばれる新型モーターが使用されていた。これは1フィールドとミノフスキー粒子の相互作用を利用したシステムであり、このミノフスキー物理学の応用を発展させた形で、マグネット・コーティング理論も誕生した。
- ※4……S.F.S.(サブ・フライド・システム)とTMSの中間的なウェポン・システム。S.F.S.と分離・合体で簡単な変形をするMSをベアにした物で、これにより堅実性と高コスト面は改善する事に成功している。

注意

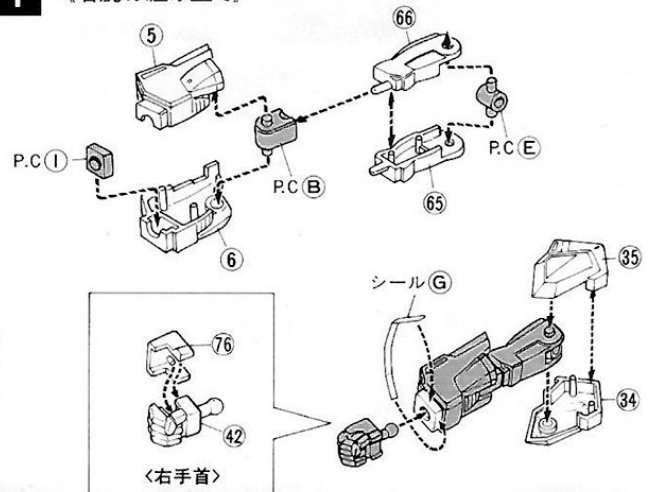
必ずお読みください

- 小さな部品がありますので、誤って飲み込まないように注意してください。
窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、小さなお子様には絶対に与えないでください。

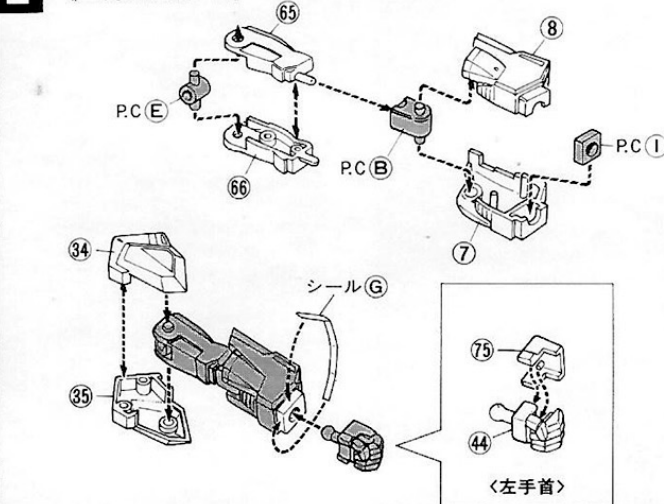
《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

1 《右腕の組み立て》

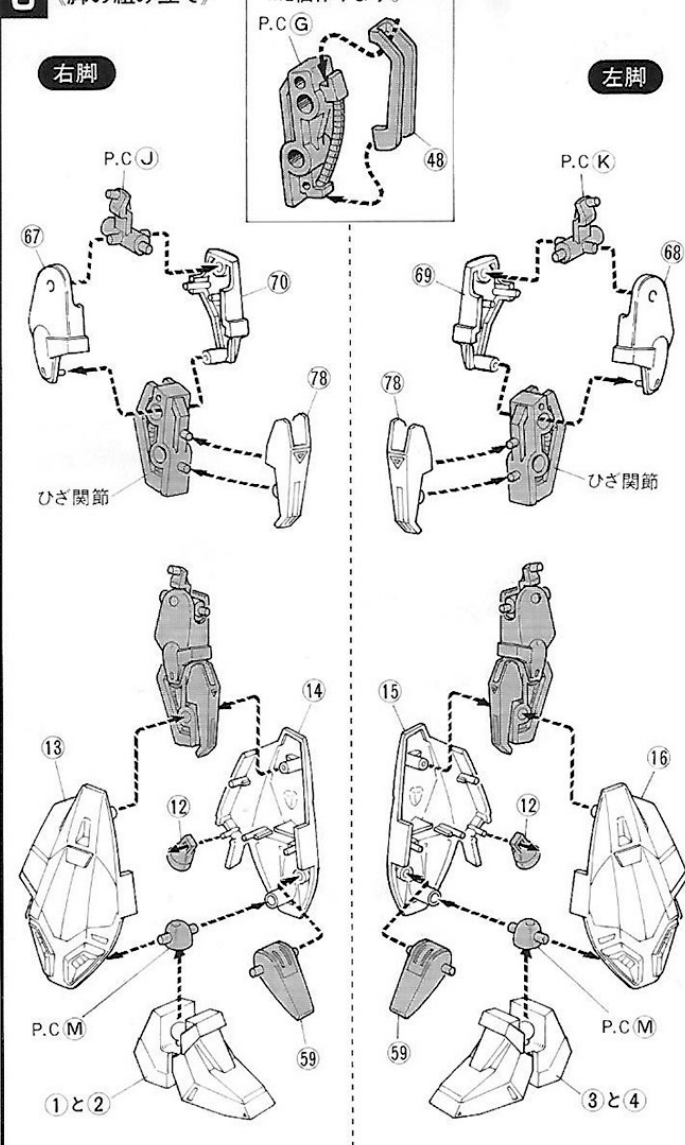


2 《左腕の組み立て》

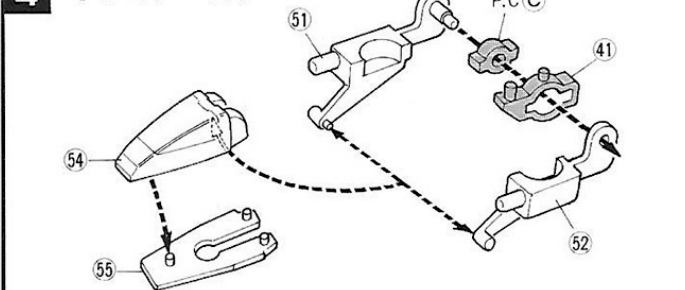


3 《脚の組み立て》

※2個作ります。



4 《コクピットブロック》



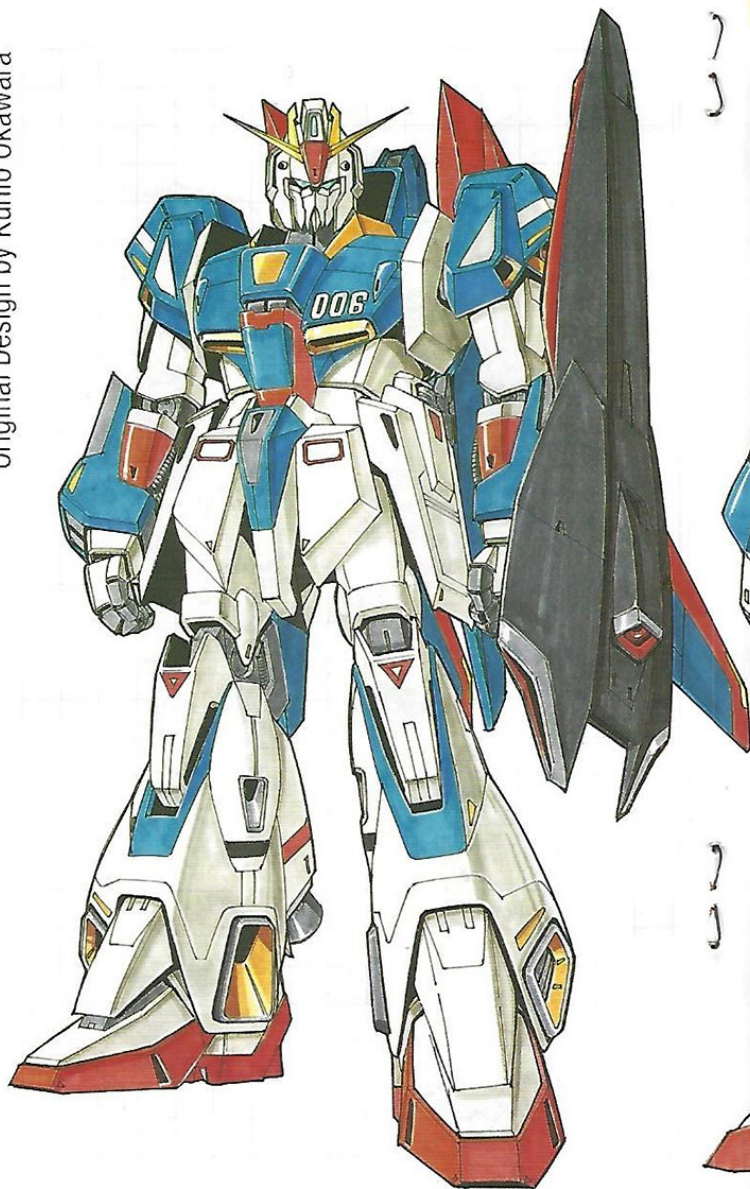
●この設定イラストは、メカ・デザイナーの大河原邦男氏がHGモデル用に新たに描き起したものです。

※この設定イラストは、大河原氏のオリジナルカラーのため、シールドやウイングアーマーがキットの設定カラーと異なる所があります。

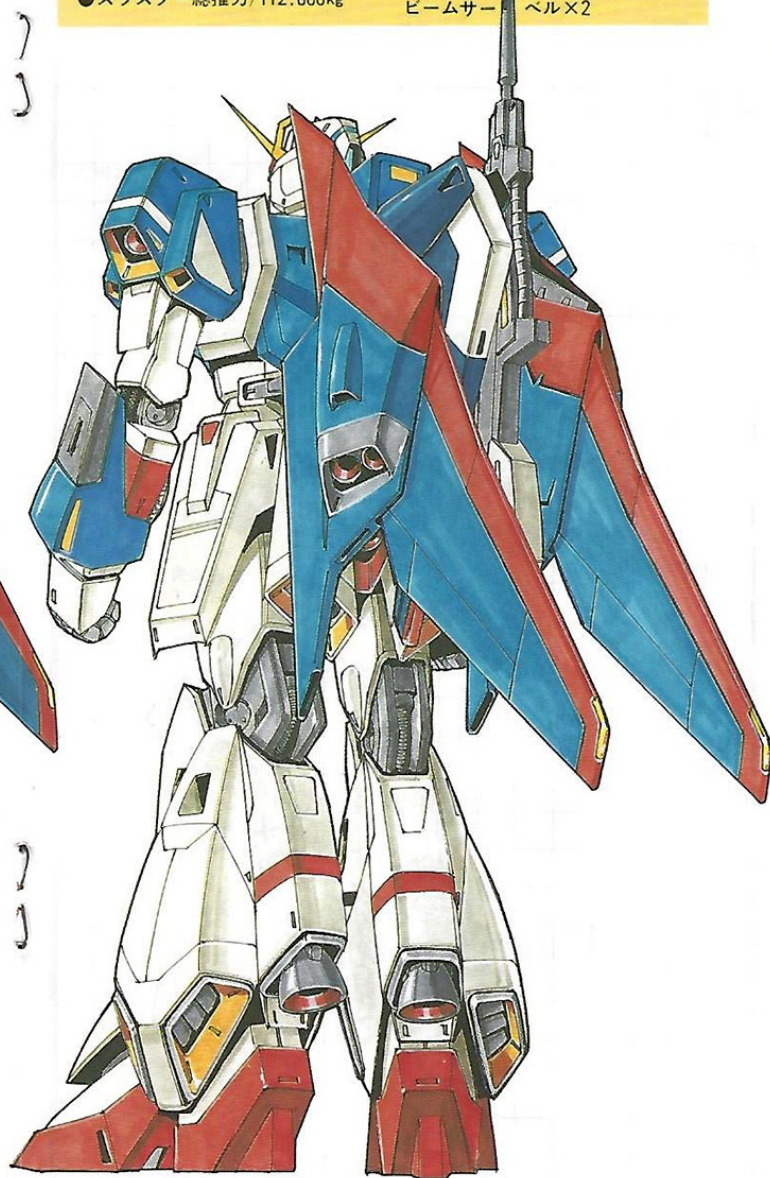
MSZ-006 SPEC

- 頭頂高/19.8m
- 本体重量/28.7t
- 全備重量/62.3t
- ジェネレータ出力/2,020kW
- スラスター総推力/112,600kg
- センサー有効半径/14,000m
- 装甲材質/ガンダリウム合金
- 武装/ビームライフル、ハイパーメガランチャー、バルカン砲×2、グレネードランチャー×2、ビームサーベル×2

Original Design by Kunio Ōkawara



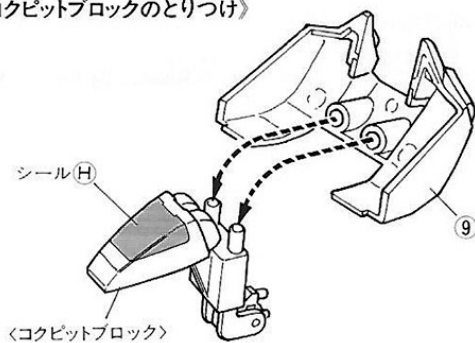
■FRONT VIEW



■REAR VIEW

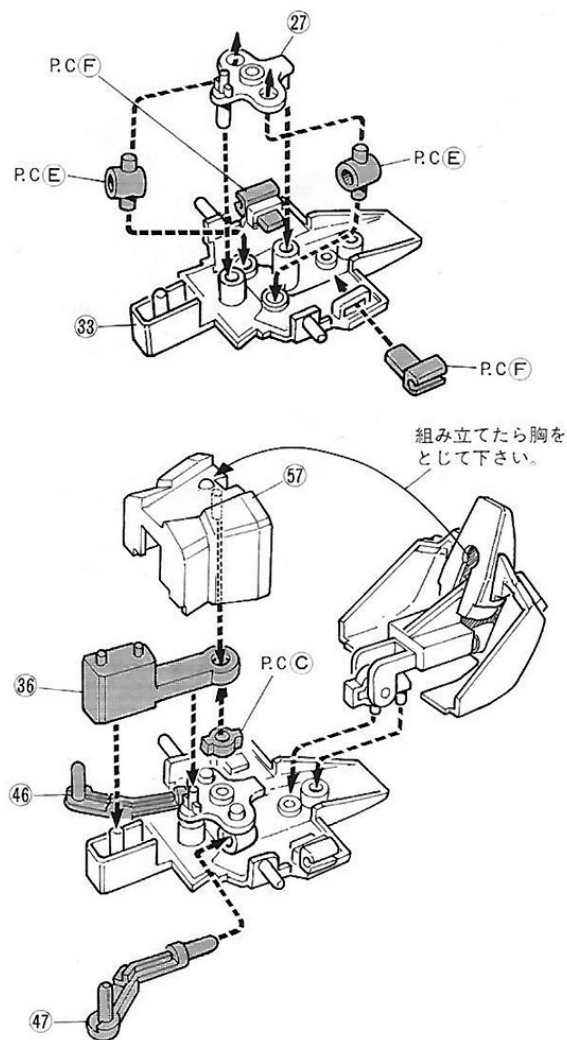
5

《コクピットブロックのとりつけ》



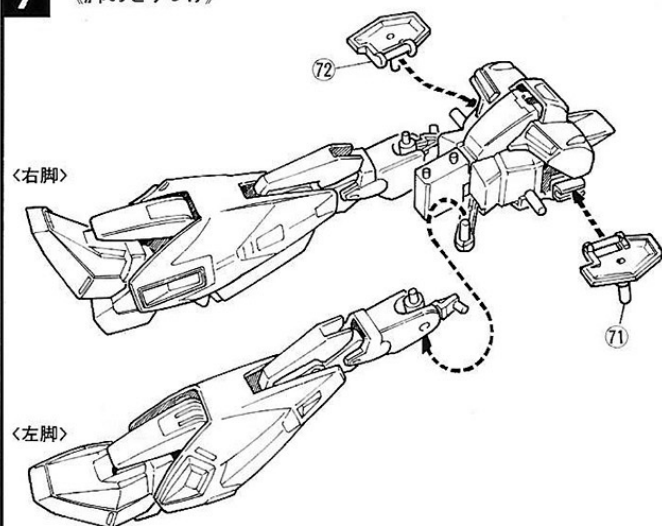
6

《胴体の組み立て》



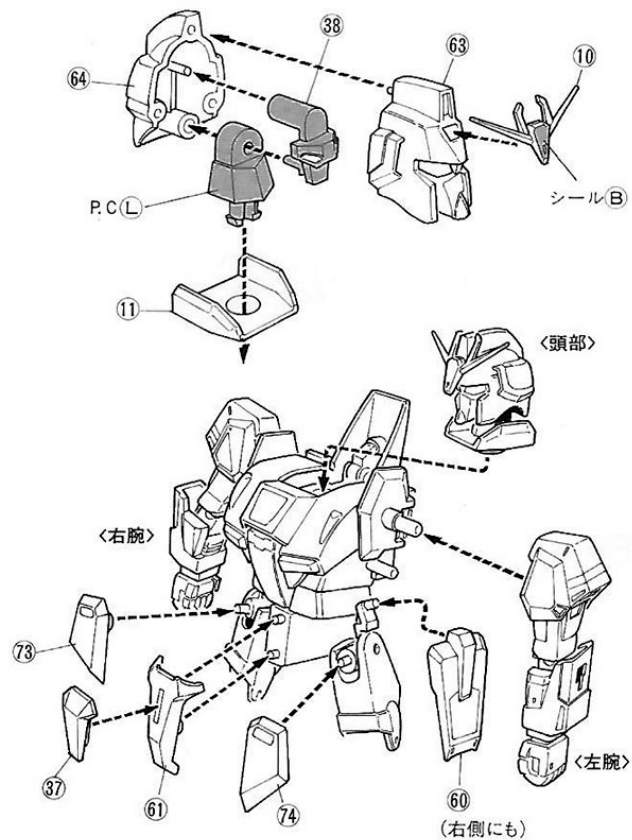
7

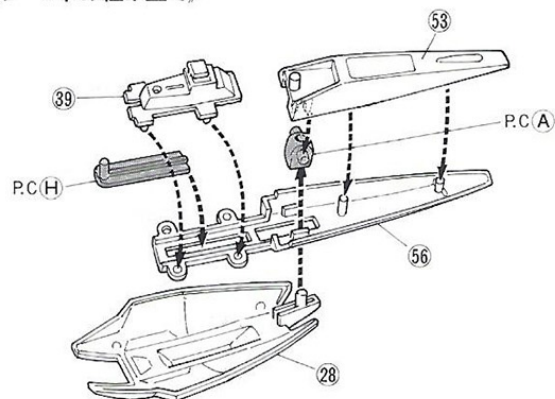
《脚のとりつけ》



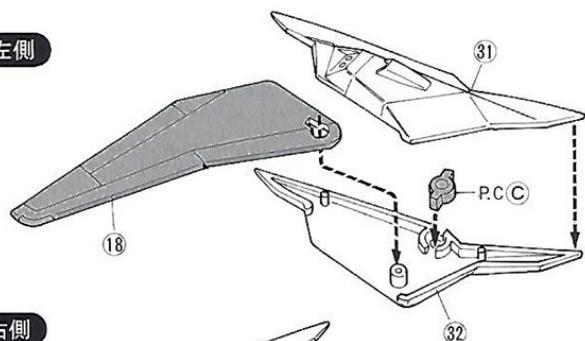
8

《頭部・腕のとりつけ》

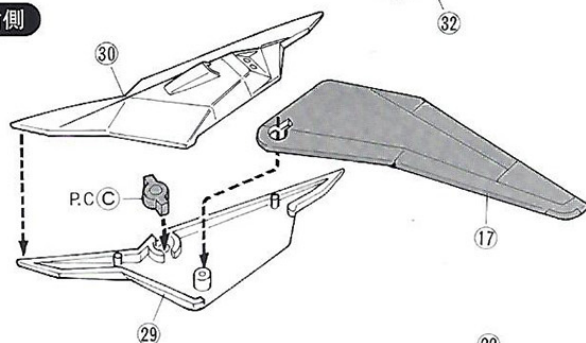




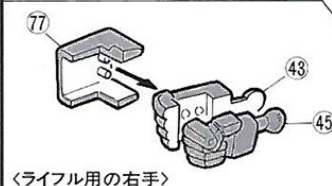
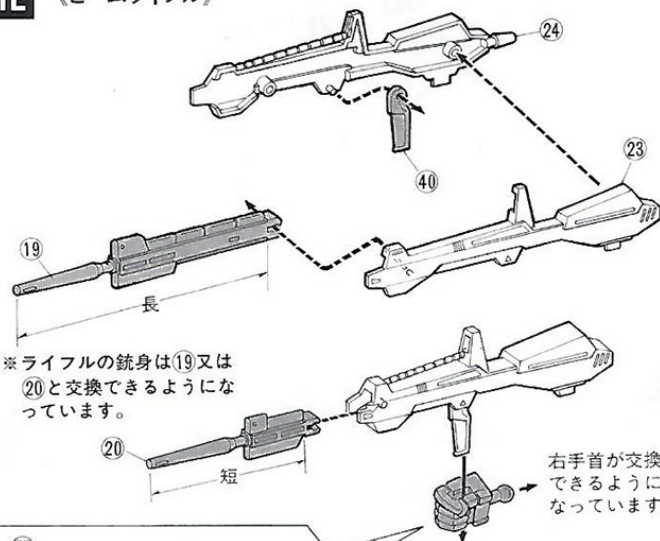
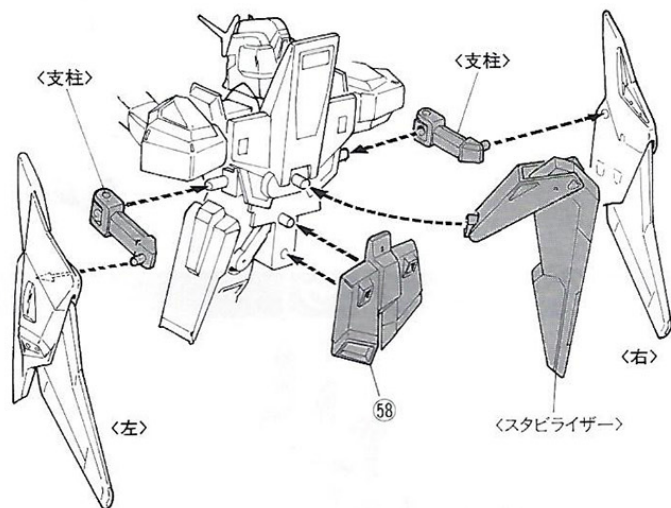
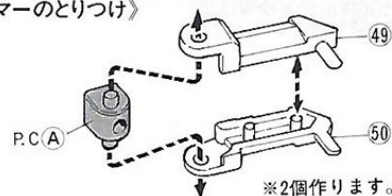
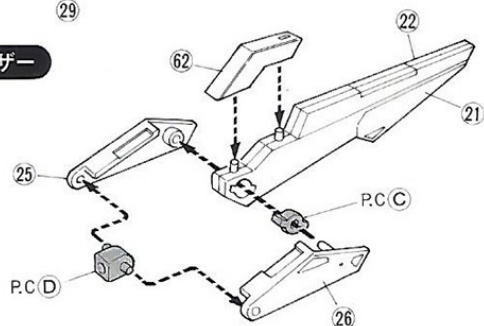
左側



右側



スタビライザー



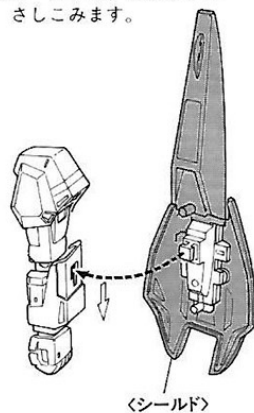
《ビームライフルのとりつけ》

※この場合は、銃身の短い方にします。

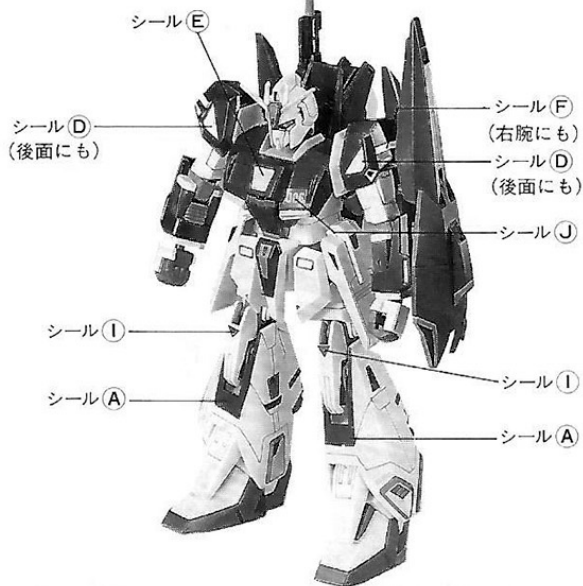


《シールドのとりつけ》

●シールドは、腕のミゾにさしこみます。

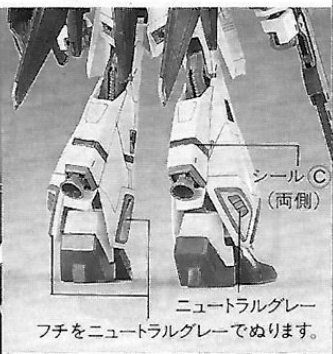
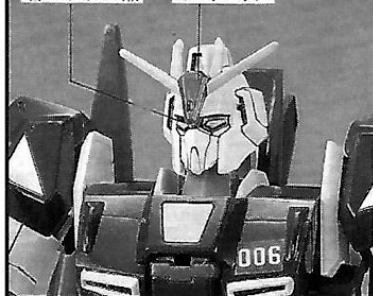


シール&細部ペインティング



目のフチ：黒

モンザレッド



MS形態からウェーブシューターへの変形パターン

1

- ① 頭部とシールドを取りはずします。
- ② 胸部を上げ、腹部パーツ57を外します。

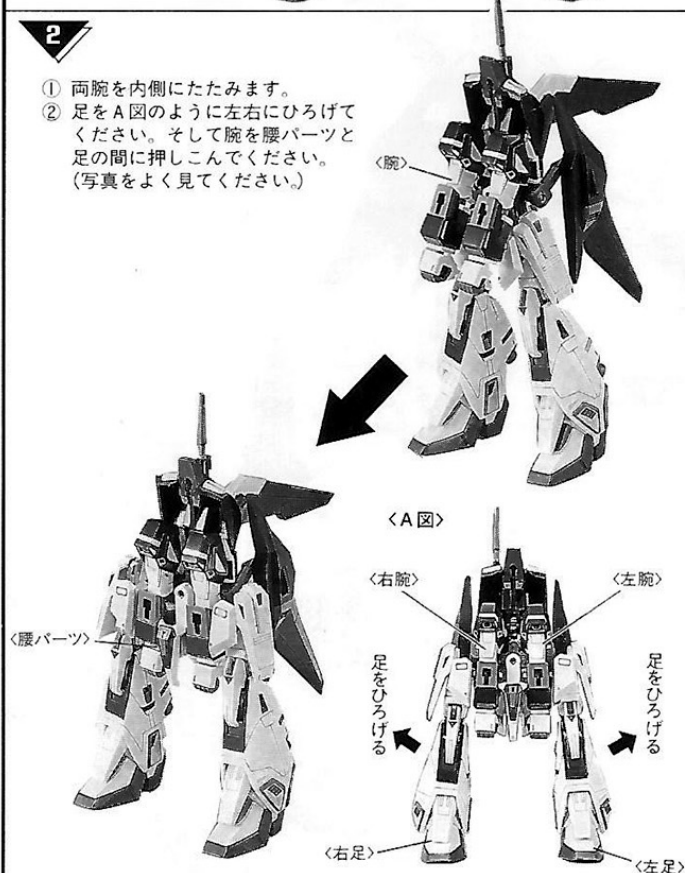


腹部パーツ



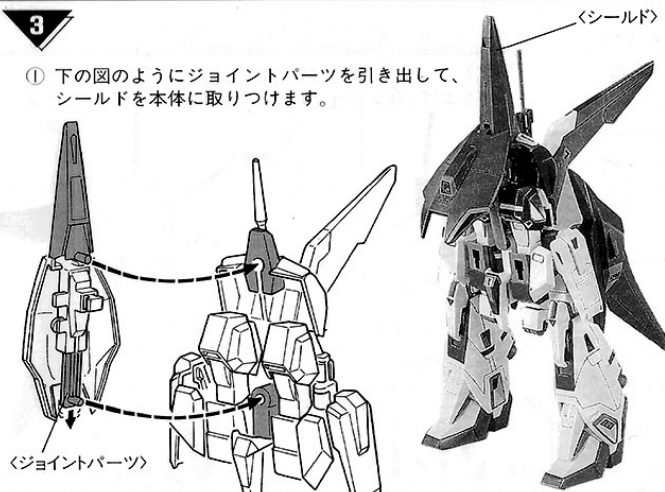
2

- ① 両腕を内側にたたみます。
- ② 足をA図のように左右にひろげてください。そして腕を腰パーツと足の間に押しこんでください。(写真をよく見てください。)



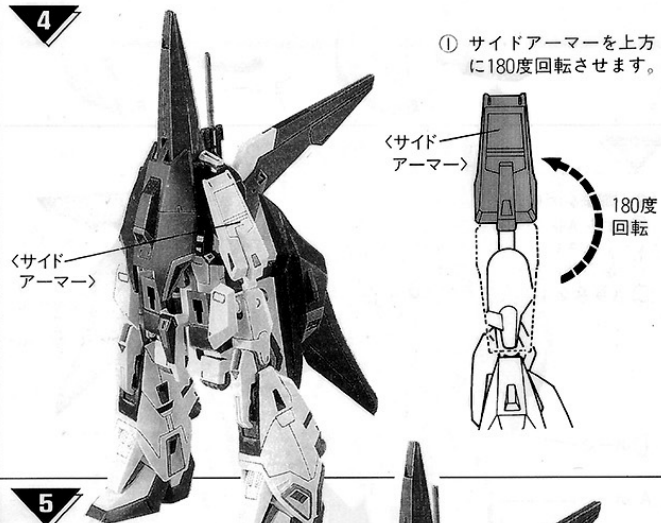
3

- ① 下の図のようにジョイントパーツを引き出して、シールドを本体に取り付けます。



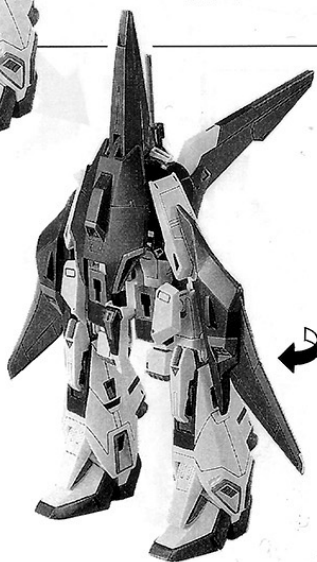
4

- ① サイドアーマーを上方に180度回転させます。



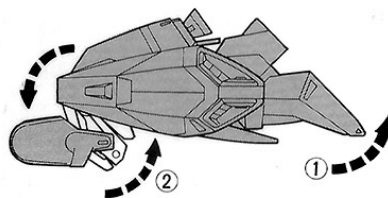
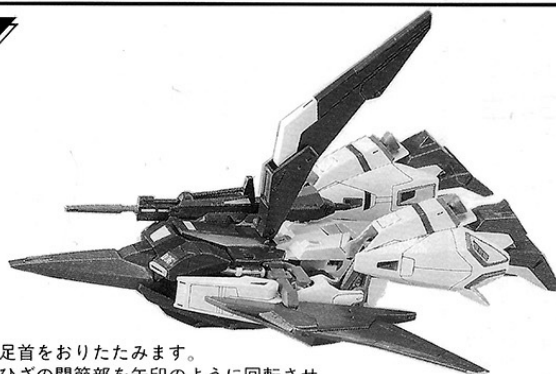
5

- ① フライングアーマーを90度横にもってきます。



6

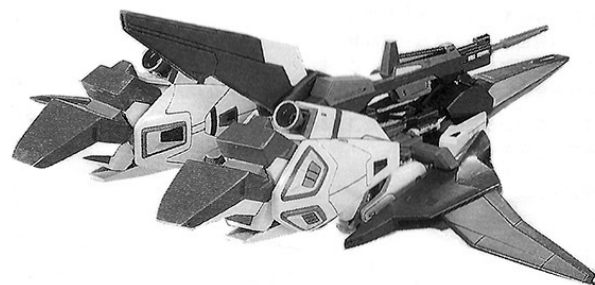
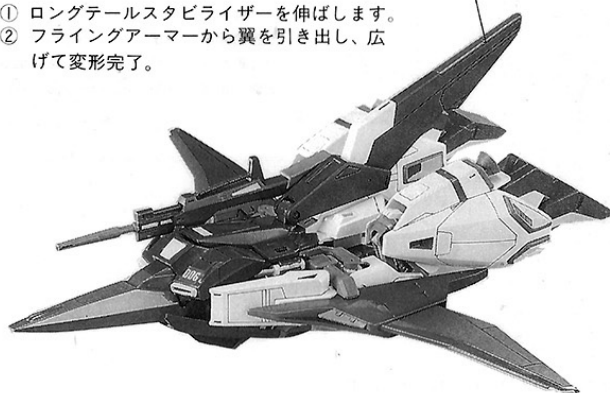
- ① 足首をおりためます。
② ひざの関節部を矢印のように回転させ足をおりまげます。



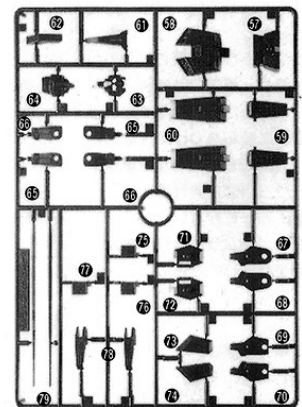
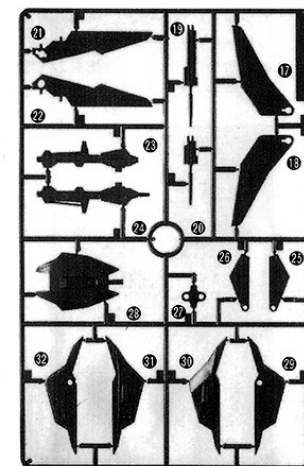
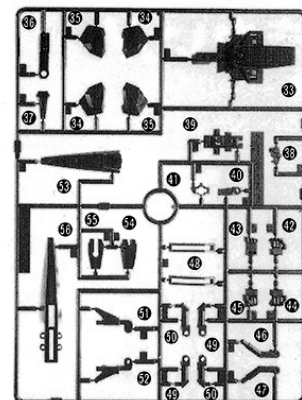
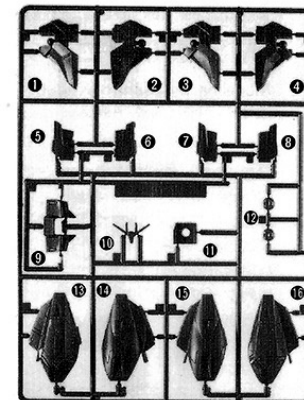
7

- ① ロングテールスタビライザーを伸ばします。
② フライングアーマーから翼を引き出し、広げて変形完了。

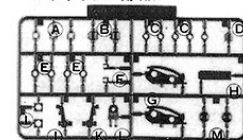
〈ロングテールスタビライザー〉



パーツリスト



〈ポリキャップ部品〉



●シール……1

★この製品は、多色・異材射出成形機により生産されたものです。
(特許出願中)

《お買い上げのお客様へ》

部品をこわしたり、なくした人には実費にて部品をお付けします。必ず部品注文カードに必要な部品番号・数量などをはっきり書いて切り取り、部品代金(部品代+当社からの郵送料)を郵便為替(料金の安い定期小為替も可)で下記のお客様相談センターまでお申し込みください。

部品代は、1個40円で郵送料は120円です。郵便為替は、この部品代金の他に「為替料金」が加わりますので、くわしくはお近くの郵便局でおたずねください。部品数が多くて郵送料が120円をこえる時は不足分を

請求させていただきます。それ以下の時は残額をお返しします。(お送りする部品の形状・数量により郵送料が変わります。)

もし部品に不良品がございましたらその部分を切り取り、商品名を書いて当社までお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先
静岡県清水市西久保305 千424-8735
株式会社静岡工場お客様相談センター
部品係
TEL 0543-65-5315

部品注文カード

'90.6-29771-1200

HG 1/144 ゼータガンダム

●部品の注文は「郵便為替」(定期小為替でも可)でお申し込みください。

必要な部品の番号・数量をかく

赤・白・青 きれい!! ■色のぬり方

HGシリーズは、組立完成度と、自由なアクションと、システムインジェクションを使ったキットです。そのため塗装をしないで楽しめます。しかし、細かい部分や墨線までは、入れることはできません。ですから今回は、塗装の基本について説明しましょう。まず、キットを組み立てる前に、中性洗剤を使ってパーツを洗いましょう。パーツに付いている油分がきれいにとれたら、塗装にはいるわけですが、その前に部屋の換気をしっかりとしましょう。できれば屋外の、人に迷惑にならない場所で行うのがベストです。

筆塗り 筆塗りは塗装の基本の中の基本ですからこれを中心に説明しましょう。

①筆に塗料をつけすぎない。塗装のムラができて乾いてから重ね塗りをすれば塗リムラは、消えます。

②塗料が乾かないうちに、重ね塗りをしない。(筆ムラになります。)

③重ね塗りの場合には、1回目の筆塗りの方向に対して垂直方向に塗るようにします。

墨線 墨線は、キットの彫刻に塗料を流し込んで、キットのディテールをよりはっきりとさせる方法です。ラッカー系又は、アクリル系の塗料で塗装した場合、シンナーでうすく溶いたエナメル系の塗料を流して、はみだした所をふき取る方法です。

①色の濃いエナメル系の塗料をシンナーでうすく溶き、キットの彫刻部分に、塗ります(はみだしてもOK)

②綿棒などにエナメル系のシンナーをしみこませて、はみだした所をふき取ります。

塗装については、この他にもスプレーによる塗装などがありますが、みなさんも、いろいろな塗装のしかたを試してみてください。



当社の誇る多色成形技術により、極限にちかいくまらで各パーツを色分けしました。この技術により、組み立てるだけで、ほぼイメージカラーどりに仕上がります。

MSZ-006 'ZETA GUNDAM'

“MSZ-006「ゼータガンダム」HG誕生

Modeling by Mahito Kuguu
モデル制作/久々宇真人

RX-78ガンダムを皮切りに、HG (High Grade) シリーズは、名実ともにファンあるいはマニアの間で好評を博し、ガンダムの長い歴史の中にあって、また新たな話題を残しつつあるのだ。同スケールで同タイプのを、新しく作り直すという事は、ある意味では、大変な作業である。この苛酷な条件の中から今度のゼータガンダムも、生まれてきたのだ。デザインも、もちろん、メカの魔術師大河原氏の手でリファインされ、多色成形技術がふんだんに盛り込まれ、先の1/144ゼータガンダムに較べると、格段の差がついてしまった。だから作る側としても大変複雑な気持ちで仕上がったものを眺めている。飛行形態への変形が可能になり、多



色成形による色分けが細かくほどござれて、各関節部が細かく可動する。だから作る者にとっては、手を入れる部分が少なくなってしまう手応えがない程にも思える高い完成度となっている。RX-78ガンダムからスタートして、シリーズを重ねて行くことに、ディテール、アクション、完成度がより高められて来ているのが良くわかる。特にアクション部分には最大の苦心が払われており、接着剤を

▶HGの第二弾、ゼータガンダムのプロポーション。製作は、久々宇真人氏により再現。



◀排気ノズルやバニーアに汚し塗装を入れて、更に精密度をましている。

▶頭部自由可動。塗装で工夫すれば更に迫力がアップする。

1/144.MSZ-006ゼータガンダムだ。高鳴るガンダムHGシリーズの鼓動が、ドックドックンと作る者に伝わって来るような新生ガンプラは、ガンダムヒストリーの一頁一頁を作り上げて行く事は間違いない事だろう。更に、更にハイクオリティなガンプラに仕上げるには、また作る者の腕の見せどころであろう……。次なる作品を期待しながら、また背中に衝撃が走るのを覚える……ブルッ!!



使用せずに組み上げられたものを、ロボット形態から飛行形態への変形アクションは、設計マンを、完全にパニックへと追い込んだ。変形中の部品の外れが少しでもあっては見苦しいし、スムーズな動きが要求されて当然だった。しかし、これらの条件を見事と克服したのが、この

▼前回のゼータガンダムにはなかった、1/144スケールでの変形。ウェーブシューター

